

都市再生整備計画 事後評価シート  
守山市中部地区

平成30年3月

滋賀県守山市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	滋賀県	市町村名	守山市	地区名	守山市中部地区			面積	513ha			
交付期間	平成24年度～平成28年度	事後評価実施時期	平成29年度	交付対象事業費	2,687百万円	国費率	0.4					
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 道路(市道古高川田線) 公園(市民運動公園、北川原地区) 高質空間形成施設(目田川)									
		提案事業	地域創造支援事業(市民ホール) まちづくり活動推進事業(キッズフェスティバル)									
	当初計画から削除した事業	基幹事業	公園(市民球場)	削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響						
		提案事業	なし	-		-						
	新たに追加した事業	基幹事業	公園(市民運動公園)	同上		-						
提案事業		地域創造支援事業(市民ホール)	利用者の利便性向上を図るため、地域コミュニティの拠点である市民ホールを改修整備を対象事業とした。		-							
交付期間の変更	当初	平成24年度～平成28年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-							
	変更	なし										
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値		目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み				
	指標1	公共施設の利用者数	人/年	17,424 H22	49,700 H28		42,308	△	あり	あり	・野球場の更新設備の変更やテニスコート新設の事業遅れにより、当初計画していた効果が反映しきれなかったため目標を達成できなかった。しかしながら、施設の機能拡充により対象利用者層が広がり、周辺や附属する施設についても環境整備が図られ利用しやすい施設となったことが、利用者数の増加につながったと考えられる。 ・目標設定時の利用者数の把握が不可能であり、目標を達成できなかったものの、地域コミュニティの活動拠点、災害時の防災拠点となる地区公園が整備されたことで、地域の交流やコミュニティ活動が活発化したと考えられる。	平成30年5月
指標2	エリアの居住人口	人	21,182 H22	22,072 H28		22,311	○	あり	あり	・市道のバリアフリー化により、歩行者や自転車利用者が安心して利用できる道路空間の確保が図られたことや、多様化するニーズに対応した公園や施設の環境整備およびイベントの開催等が居住人口の増加につながったと考えられる。	平成30年4月	
								なし	なし			
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値		目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度※1	達成見込み				
その他の数値指標1												
4) 定性的な効果発現状況												
5) 実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング	-		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								
	住民参加プロセス	・古高川田線道路改良工事に係る現地点検 ・守山市市民運動公園再整備構想(案)に係るパブリックコメント ・北川原公園に係る地元との協議		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 対応可能なものについては対応済みであり、今後も市民や自治会の意見を聞いて対応を行い、施設の利用促進を図る。				
	持続的なまちづくり体制の構築	・ルシオールアートキッズフェスティバル ・野洲川・法竜川・里川の「水辺空間」満喫プロジェクト		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● “ルシオールアートキッズフェスティバル”をさらに集客力のあるイベントに発展させるための企画・内容の拡充を図る。 ● 地域の人々同士のつながりを深めるために、水辺空間を積極的に活用した地域の交流・憩いの場・機会づくりを推進する。				

## 様式2-2 地区の概要

### 守山市中部地区(滋賀県守山市) 都市再生整備計画事業の成果概要

大目標 「住みやすさ日本一」が実感できるまちづくり 目標1 生涯すみ続けたい、安全で安心して暮らせる住環境の向上 目標2 スポーツを通じた健康づくりの推進や地域コミュニティの活性化促進	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
	公共施設の利用者数	人/年	17,424	H22	49,700	H28	42,308	H29
	エリアの定住人口	人	21,182	H22	22,072	H28	22,311	H29

#### ①北川原地区公園整備事業

##### 新設公園整備

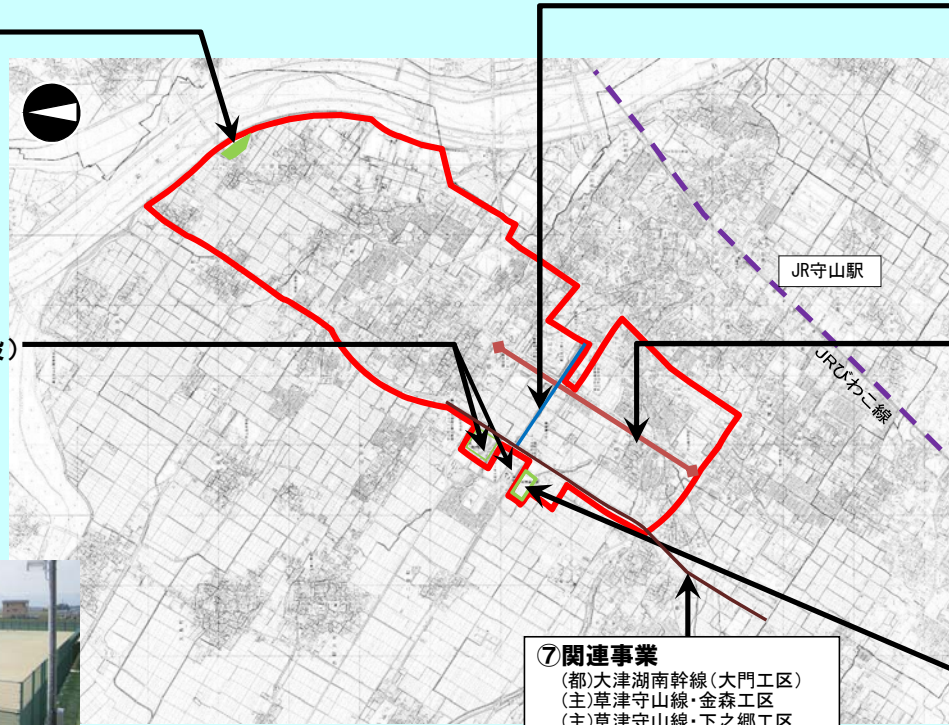
基幹事業(公園)



#### ②市民運動公園整備事業

##### 改修整備(市民球場改修、テニスコート新設)

基幹事業(公園)



#### ③目田川河川公園整備事業

##### 遊歩道、自転車道の設置

基幹事業(高質空間形成施設)



#### ④市道古高川田線整備事業

##### バリアフリー整備、自転車道の設置

基幹事業(道路)



#### ⑦関連事業

(都)大津湖南幹線(大門工区)  
(主)草津守山線・金森工区  
(主)草津守山線・下之郷工区

#### ⑤市民ホールの改修

提案事業(地域創造支援事業)

#### ⑥キッズフェスティバルの開催

提案事業(まちづくり活動推進事業)

まちの課題の変化  
 ◇市民球場が改修され、課題であった老朽化や耐震への不安の解消が図られた。  
 ◇遊歩道および自転車道路が設置され、中心市街地から市民運動公園までのアクセス路が確保された。  
 ◇公園の整備により、北川原地区周辺のふれあいの場および災害時における避難場所が確保された。  
 ◇テニスコートの新設により、利用者のニーズに対応した施設の充実が図られた。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)  
 ◇施設の機能を最大限に活かすために、音楽やスポーツをテーマにしたイベントや取組みの拡充を図る。  
 ◇災害時に備えた地域の共助力の強化を図る。  
 ◇さらなる道路空間や環境整備により安心安全で快適な居住環境の充実を図る。  
 ◇地域の魅力の発信を行うとともに次世代の担い手育成の強化を図る。

# 都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

## (1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

## (2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

## (3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

## (4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

## (5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

## (6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

## (7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値	●		指標1 公共施設の利用者数 ⇒ 30,500人/年 内訳は市民球場および北川原公園(イベント非開催時)を利用する人数	指標1 公共施設の利用者数 ⇒ 49,700人/年 内訳にテニスコートの利用者数を追加	当該指標に直接的に影響する事業(基幹事業(公園))の内容を変更し、市民運動公園内にある市民球場のみの改修計画に、同公園内にあるテニスコートの改修を追加したため。
D. その他(区域面積、事業期間)	●		区域面積 ⇒ 527ha	区域面積 ⇒ 513ha	守山市南部地区都市再生整備計画(H25～H29)の区域と重複する部分を区域から除外したため。

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	市道古高川田線	413	L=2,400m	460	L=1,900m	事業内容の精査による事業費増	影響なし		●
公園	市民運動公園	726	A=13,137㎡	1,745	A=35,137㎡	事業内容の拡大による事業費増	事業の拡大に伴い、指標1(公共施設の利用者数)の目標値をテニスコート利用者数を追加して変更(30,500人⇒49,700人)	●	
公園	北川原地区	177	A=9,000㎡	195	A=9,000㎡	事業内容の精査による事業費増	影響なし	●	
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設									
高質空間形成施設	目田川	50	照明灯20ヶ所 ベンチ10基 東屋1基 自然色舗装 一式	50	照明灯20ヶ所 ベンチ10基 東屋1基 自然色舗装 一式	変更なし		●	
高次都市施設									
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業										
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響		事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容		完成	完成見込み		
地区再開発事業										
バリアフリー環境整備事業										
優良建築物等整備事業										
住宅市街地総合整備事業										
街なみ環境整備事業										
住宅地区改良事業等										
都心共同住宅供給事業										
公営住宅等整備										
都市再生住宅等整備										
防災街区整備事業										

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	市民ホール	-	-	193	施設内設備と空調の 改修工事	第1回変更(H26)時に事業内容の 追加により事業費増	影響なし	●	
事業活用調査									
まちづくり 活動推進事業	キッズフェスティバル	44	音楽祭と子供体験事 業の開催および広報	44	音楽祭と子供体験事 業の開催および広報	変更なし		●	

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更 計画	当初計画	最終変更計画		
(都)大津湖南幹線(大門工区)		大津湖南幹線	1,286	-	H17~H26	-		
(主)草津守山線・金森工区		草津守山線	1,378	-	H14~H26	-		
(主)草津守山線・下之郷工区		草津守山線	1,861	-	H14~H26	-		



添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)		目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
			基準年度	基準年度	基準年度	目標年度	モニタリング	事後評価	モニタリング	事後評価	あり	なし		
指標1	公共施設の利用者数	人/年	—	—	17,424	H22	49,700	H28	モニタリング		モニタリング			
									事後評価	確定 見込み ●	42,308	事後評価	△	●
指標2	エリアの居住人口	人	—	—	21,182	H22	22,072	H28	モニタリング		モニタリング			
									事後評価	確定 見込み ●	22,311	事後評価	○	

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民球場の更新設備の変更やテニスコート新設の事業遅れにより、当初計画していた効果が反映しきれなかったため目標を達成できなかったものの、野球場の機能拡充やテニスコートが増設され、さらに周辺や附属する施設についても環境整備が図られたことが、利用者数の増加に貢献していると考え「△」とした。</li> <li>目標設定時の利用者数の把握が不可能であり、目標を達成できなかったものの、地域のあらゆる年齢層の人が利用でき、災害時の避難場所となる地区公園が整備されたため、利用者数の増加に直接的に貢献していると考え「△」とした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民球場の改修では、当初ナイター設備の新設を計画しており、夜間の利用者数を見込んで目標値を設定したが、ナイター設備をグラウンド拡張、外野の人口芝およびスコアボード設備設置等に変更したため、夜間利用者はなしとなった。</li> <li>目標設定時に設定していた「北川原公園の利用者数」は、公園利用が登録制ではないため、利用者数の把握が不可能であった。把握可能な数値を設定するべきであった。</li> </ul>
指標2	<ul style="list-style-type: none"> <li>市道のバリアフリー化により、歩行者・自転車利用者が安心して利用できる道路空間の確保が図られたことが、居住人口の増加に間接的に貢献していると考え「○」とした。</li> <li>多様化するニーズに対応した公園や施設の環境整備およびイベントの開催等が居住人口の増加に間接的に貢献していると考え「○」とした。</li> </ul>	—

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○ : 評価値が目標値を上回った場合

△ : 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

× : 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)	本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
			基準 年度		基準 年度				
その他の 数値指標1							モニタリング		
							事後評価		
その他の 数値指標2							モニタリング		
							事後評価		
その他の 数値指標3							モニタリング		
							事後評価		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

## (2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

### 添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		

### 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
古高川田線道路改良工事に係る現地点検	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した ● 予定したが実施できなかった (理由)	[実施頻度] 計1回 [実施時期] 平成27年7月10日 [実施内容] 古高川田線道路改良工事後に、金森自治会主体でバリアフリー化の現地点検を行い、市の道路河川課が同行した。後日、自治会から改善提案意見の提出があり、対応案について回答した。	対応可能なものについては対応済みであり、順次対策を行う。
守山市民運動公園再整備構想(案)に係るパブリックコメント	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した ● 予定したが実施できなかった (理由)	[実施頻度] 計1回 [実施時期] 平成25年7月16日～8月6日 [実施結果] 守山市民運動公園の再整備に向け、住民の意見を聞き、設計・整備に反映したことで、利用度満足度の高い施設を整備した。	今後も市民の意見を聞いて、利用促進を図る。
北川原公園整備に係る地元との協議	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した ● 予定したが実施できなかった (理由)	[実施頻度] 計6回 [実施時期] 平成23年4月～平成25年8月 [実施内容] 平成23年度は、北川原公園整備に向け、喜多整備代表者と協議を行い、整備の基本図を作成した。3自治会より北川原整備代表者が選出され用地契約を含め整備計画を協議した。	引き続き自治会の意見を聞いて、利用促進を図る。

### 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要	
ルシオールアートキッズフェスティバル	予定どおり実施した ● 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	こどもから大人までみんなが楽しみ、本格的な文化芸術に触れる場として、びわ湖ホールで開催されるクラシック音楽の世界的イベント「ラ・フォル・ジュルネびわ湖」と連携して取り組んでいる。	地元の学校、市民団体等が、出演者やボランティアとして参加	参加者は年々増加している。今後も取組みを継続、拡充し、市民の芸術への関心や親近感の醸成を図る。
野洲川・法竜川・里川の「水辺空間」満喫プロジェクト	予定どおり実施した ● 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	河西学区自治会から選ばれた推進委員が、公園西側の空き地400㎡を、公園の整備完了に合わせて「ふれあい花壇」の整備を進めた。	河西学区自治会	地域の人々同士のつながりを深めるために、『野洲川・法竜川・里川の「水辺空間」満喫プロジェクト』の取組みを継続、拡充し、地域の交流・憩いの場・機会づくりを推進する。

### (3) 効果発現要因の整理

#### 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内検討会議	道路河川課、建設管理課、都市計画課	平成29年10月25日	道路河川課

#### 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2							
指標名		エリアの居住人口							
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路（市道古高川田線のバリアフリー化）	○	・本事業の実施により、中心市街地から市民ホールまでを結ぶ目田川河川公園や、市民ホールの改修により、施設が利用しやすくなったこと、さらにこれらを会場としたイベント等の広がりがまちの活発化につながった。 ・市民ホールをメイン会場としたキッズフェスティバルの開催等により、魅力の向上や地域への愛着心を醸成し、居住人口の増加に貢献したと思われる。						
	公園（市民運動公園の改修）	○							
	公園（北川原公園の整備）	○							
提案事業	高質空間形成施設（目田川河川公園の整備）	○							
	地域創造支援事業（市民ホールの改修）	○							
	まちづくり活動推進事業（キッズフェスティバルの開催）	○							
関連事業	(都)大津湖南幹線(大門工区)	○							
	(都)草津守山線・金森工区	○							
	(都)草津守山線・下之郷工区	○							

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ー：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さらなる道路空間や環境整備により安心安全で快適な居住環境の充実に図る。</li> <li>・地域の魅力の発信を行うとともに次世代の担い手育成の強化を図る。</li> </ul>				
-------	--	--	--	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1													
指標名		公共施設の利用者数													
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類		
基幹事業	道路（市道古高川田線のバリアフリー化）	-	・市民球場の更新設備の変更やテニスコート新設の事業遅れにより、当初計画していた効果が反映しきれなかったこと、また、目標設定時の利用者数の把握が不可能であったことから、目標を達成できなかった。	I											
	公園（市民運動公園の改修）	△													
	公園（北川原公園の整備）	△													
	高質空間形成施設（目田川河川公園の整備）	-													
提案事業	地域創造支援事業（市民ホール改修）	-													
	まちづくり活動推進事業（キッズフェスティバルの開催）	-													
関連事業	(都)大津湖南幹線(大門工区)	-													
	(都)草津守山線・金森工区	-													
	(都)草津守山線・下之郷工区	-													

※目標未達成への影響度

- × ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の機能を最大限に活かすために、音楽やスポーツをテーマにしたイベントや取組みの拡充を図る。</li> <li>・災害時に備えた地域の共助力の強化を図る。</li> </ul>			
------------------	--	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内検討会議	道路河川課、建設管理課、都市計画課	平成29年10月25日	道路河川課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
市民球場は昭和56年に供用開始してから30年近くが経ち、施設の老朽化が目立っている。	市民球場が改修され、課題であった老朽化や耐震への不安の解消が図られた。	-	-
歩行者および自転車利用者が安心して気軽に市民運動公園にアクセスできる空間がない。	遊歩道および自転車道路が設置され、中心市街地から市民運動公園までのアクセス路が確保された。		
地域の人々のふれあいの場として、身近なところに子供から高齢者まですべての年齢層が気軽に利用できる公園・広場が必要である。	公園の整備により、北川原地区周辺のふれあいの場および災害時における避難場所が確保された。		
北川原地区周辺には災害時における大規模な避難場所が不足している。			
市内のテニスコートの利用者が多く、テニスコートが不足している。	テニスコートの新設により、利用者のニーズに対応した施設の充実が図られた。		

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	市民活動に対する支援や連携	・施設の機能を最大限に活かすために、音楽やスポーツをテーマにしたイベントや取組みの拡充を図る。	・“ルシオールアートキッズフェスティバル”をさらに集客力のあるイベントに発展させるための企画・内容の拡充。 ・スポーツをテーマにしたイベント、ウォーキングやサイクル等の取組みの拡充。
	共助力の強化	・災害時に備えた地域の共助力の強化を図る。	・地域主体の防災訓練や防災イベントの取組み。
	道路空間や環境の整備	・さらなる道路空間や環境整備により安心安全で快適な居住環境の充実に図る。	・道路のバリアフリー化の拡充、さらには歩きたくなる魅力的な歩行者空間の創出。
	地域の魅力発信と次世代の担い手育成の強化	・地域の魅力の発信を行うとともに次世代の担い手育成の強化を図る。	・地域の魅力発信 ・次世代の担い手育成のための取組み。

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業

フォローアップ又は次期計画等  
において実施する改善策  
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

✓	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
✓	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
✓	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
✓	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
✓	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

--

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

- ・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無
			年度	年度	年度	年度				
指標1	公共施設の利用者数	人/年	17,424	H22	49,700	H28	確定 見込み ●	42,308	△	あり なし ●
指標2	エリアの居住人口	人	21,182	H22	22,072	H28	確定 見込み ●	22,311	○	あり なし
その他の数値指標1							確定 見込み			
							確定 見込み			

フォローアップ計画		
予定時期	計測方法	その他特記事項
平成30年5月	・市民運動公園テニスコート供用開始後の1年間の実績を計測する。	—
平成30年4月	市道古高川田線の整備完了後の実績を計測する。	—



**添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方**

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	—	・モニタリングを行い、事業の進捗や外的要因等を確認しながら、必要に応じて目標値を修正する。
	うまくいかなかった点	・事業内容の変更により、当初予定していた数値が見込めなくなった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	・事業内容が間接的に数値目標達成に貢献した。	・大きなまちづくりの方向性を目指した総合的な事業展開を行うことで、相乗した効果発現につなげることができる。
	うまくいかなかった点	—	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	・事業の初期段階で住民の意見を聞き、計画に反映したことで、利用者満足度の高い施設整備を行うことができた。 ・運動公園やホールが集積しているエリアにおいて、多様化するニーズに対応した環境整備を行い、併せてイベント開催による魅力発信を行ったことが、地域への愛着心や誇りの醸成につながった。	・今後も積極的に住民参加を実施する。 ・魅力的なイベント等をきっかけにした守山市の知名度向上による市外や県外からの来訪者の増加、守山市の魅力発信、地域への愛着心や誇りの醸成等によって「住み続けたいまちづくり」へとつなげることができる。
	うまくいかなかった点	—	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	—	・数値目標設定時には、数値の把握が継続して可能なものを設定する。
	うまくいかなかった点	・採用した数値指標のうち、公園の利用者数は、公園の利用が登録制でないため、数値の把握が不可能であった。	
その他	うまくいった点	—	—
	うまくいかなかった点	—	

**添付様式6—参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)**

—
---

## (5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	守山市ホームページに掲載	平成29年12月14日 ～ 平成29年12月28日	平成29年12月14日 ～ 平成29年12月28日	担当課へ郵便、ファックス、Eメール等で提出	道路河川課
広報掲載・回覧・個別配布	—	—	—		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	—	—	—		

住民の意見	・ホームページへのアクセス数は 件、意見書の提出は0件				
-------	-----------------------------	--	--	--	--

## (6) 評価委員会の審議

### 添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	立命館大学 理工学部建築都市デザイン学科教授 及川清昭 立命館大学 理工学部都市システム工学科教授 小川圭一	平成30年2月15日	道路河川課	守山市社会資本整備総合交付金評価員設置要綱	
その他の委員					

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・適切に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・数値的な目標は達成していないが、事業内容が変更されていることもあり、全体的な目的としては達成されているという評価をいただいた。事業内容の変更について明確にわかるようにしたほうがよいのではという意見があった。また、直接的な効果等の目標達成に寄与した要因(分譲住宅建設等)をフォローしておいたほうがよいという意見があった。
	実施過程の評価	・「住民参加プロセス」の今後の対応方針の中の住民の意見は順次対策するとの項目について、改善意見は記録に残しておき、次につなげていくべきであるという意見があった。事業初期段階で協議を行っており、対応可能なものについては対応済みであるとの説明で了承された。
	効果発現要因の整理	・効果発現要因の整理は、妥当であると認められた。
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案の公表は、適正であることが確認された。
	その他	・特になし。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは、妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・当該事業をきっかけとした「ルシオールアートキッズフェスティバル」は、交付期間が終了した後も継続して取組まれており、年々参加者は増加し、守山市を代表する集客力のあるイベントに発展している。今後も施設の機能を最大限に活かした音楽やスポーツをテーマにした取組みの拡充を図る。
	フォローアップ	・フォローアップ計画は、妥当であると認められた。
	その他	・特になし。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他	・特になし。	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。